

優秀賞

# おとつとんのれんだん

徳島県 徳島文理小学校一年 高尾 優一郎

ぼくは、四さいから、いろいろなピアノコンクールにちょうせんしています。ぼくは、ピアノコンクールでは、一人でひくのがあたりまえだとおもっていました。それが、二さいしたのおとうとがピアノをならって一年たち、コンクールにでられるようになったので、ピアノのせんせいが、れんだんぶもんにもちょうせんするようすすめてくれたのです。

「れんだん」というのは、一だいのピアノを二人できょうりよくして、一つのきよくをひくことです。ぼくは、いままでにも、おとうさんやおかあさんとれんだんをしたことがあったので、れんだんのコンクールにでられるのはたのしそうだとおもって、ちょうせんすることにしました。

でもおとうとのれんしゅうがはじまって、ぼくはすぐにこまってしまうことになりました。「いっせーのーせ」ではじめても、おとうとのおととあわな

いのです。なんじゅっかいあわせてもだめなのです。ぼくはおもわずおとうとに、

「ぼくにあわせないとだめじゃないか。」

といいました。そうしたら、いつもぼくのことをこうげきばかりしてくるおとうとのおおきなめから、なみだがぼろんぼろんとながれてきたのです。ぼくは、まずいとおもって、だまっていたら、おかあさんに

「なにいつてるの。どっちがとしうえだとおもってるの。おにいちゃんだってあわせなさいよ。」

とおこられてしまいました。ぼくのほうがなきたくなってしまうました。

それからまいにち、なんじゅっかいもおとうととれんしゅうして、コンクールの日がきました。かいじょうでは、二年せいのおにいさん、おねえさんがたくさんいて、ぼくたちのようにようちえんのこと

しゅつじょうしている人はあまりいないということでした。ぼくは、からだもちいさいので、「もうだめだ」とおもったとき、おとうとがぼくに、

「ゆうちゃん、こうちゃんな、きょうがんばるからな。かとうな。」

とやってきたので、ぼくはほんとうにおどろきました。れんしゅうでないていたおとうとのどこからパワーがでてきたのでしょうか。ぼくは、おとうとのパワーをもらって、ほんばんで、たのしくひくことができました。一人でひくよりずっとたのしかったです。そのうえ、ゆうしゅうしゅうをもらえたのです。ぼくは、おとうとがパワーをだしてくれたおかげだとおもいました。ソロでもゆうしゅうしゅうはもらっていたけれど、れんだんのほうがずっとたいへんなれんしゅうをもらったようです。これは、ぼくとおとうとがパワーをだしあってとったようです。ぼくは、おとうとってすごいなあとおもいました。

またらいねん、ことしよりもっとパワーがだせるように、おとうととさくせんをたてます。

